

より良い親子関係講座

NO 91

きょうだい喧嘩

子育て中の親の悩み事の一つに「きょうだい喧嘩」があります。「おもちゃをとった!」「お菓子をとられた!」「叩かれた!」「お絵かきの邪魔をした」「仲間に入れてくれない」「バカにした」等々、喧嘩の原因をあげればきりがありません。お互いの距離が近ければ近いほど、口喧嘩から、つい手が出て、足が出て、つかみ合い、最後は泣く、というように喧嘩はエスカレートしていきます。この暑いさなか、きょうだい喧嘩のあげく、ギャーギャー泣く声にイライラ。まったく頭が痛くなりますよね。

私の4人の子どもも、子どもの頃は毎日きょうだい喧嘩していました。その度に「やめなさい!」「いい加減にしなさい!」「あなたはお兄ちゃんでしょ。どうして小さい子をいじめたり、叩いたりするの!」「どうして仲良く遊ぶことができないのよ!もう〜」「〇ちゃんに謝りなさい!」なんて、毎日大声で叫んでいました。一日何度もね。

AP講座の中でも「きょうだい喧嘩が激しくてどうしたら仲良くできますか」という質問があります。私の考えは、きょうだい喧嘩できることは、まずよかったと思います。イヤなことをされて「イヤだ」と言えることはとても大事なことからです。喧嘩しても、喧嘩しても数分後には仲良く遊ぶことができるのがきょうだい。(他人だとそうはいきません!)この体験があれば、例えば他の子どもと遊んで喧嘩したとしても、また仲良く遊ぶことができるようになります。要するに、きょうだい喧嘩は、他人との付き合い方を学ぶための大切な経験なのです。この点では「一人っ子」は体験不足になりがちなので、小さいうちから他の子どもと交わって遊ぶチャンスがたくさんあるといいですね。

さて、AP講座を受けた後で、私の対応がどれほど変わったのかをご紹介します。

「お母さん、お兄ちゃんが叩いた〜。痛いよ〜」と末娘が泣いてきました。「ああら、赤くなってるね。痛かったでしょう。よしよし」と、まず泣いている末娘を優しく受け止めてなぐさめます。すると、末娘は「お母さん、お兄ちゃんを怒って!」末娘はお母さんを味方につけて、お兄ちゃんを叱って貰おうと思っています。しかし私は喧嘩に巻き込まれたくないので、「お母さんはあなたたちの喧嘩をはじめから見ていないから、分からない」といって、娘の言いなりにはなりません。案の定、娘はちょっぴり不満そうです。「じゃあ、お兄ちゃんが叩いたから、叩かないように言ってよ、お母さん」「あなたが自分で言う?自分で言うなら、お母さんはついて行ってあげるよ」「分かった」ということでお兄ちゃんのところへ。

末娘はお兄ちゃんに向かって言う。「お兄ちゃん、叩かないで。叩いたら痛いよ!」

「叩かれて痛かったんだってよ」と私。

兄は黙って、無視。

「叩かないでって言ってるよ」と、あくまでも冷静な私。

「〇〇がオレの大事にしていたカードを触った。勝手に引き出しを開けて」

「大事にしていたカードを触られたので腹がたったのね」と私。

やはり喧嘩の始まりは末娘が原因だった。今回はお兄ちゃんの机の引き出しを勝手に開けて、大事にしていたカードを触ったという。「あのね〇〇ちゃん、家族でも、きょうだいでも人の机の中を黙って開けるのはよくないと思う。それはルール違反だよ」と末娘に話す。末娘は蚊の鳴くような声で「わかった」と言って、兄に「ごめんなさい」と謝った。末娘が素直に謝ると、兄は「ボクも叩いて悪かった」と誤り、一件落着!

きょうだい喧嘩に巻き込まれないと、親はとても楽ちんです。誰の味方もしないし、誰も裁かない。すると誰からも恨まれることもない。そもそも問題を抱えているのは末娘です。彼女が自分で問題を解決できるように、親はサポートするだけ!

皆さま、問題に巻き込まれないようにくれぐれも気をつけましょうね!



(APジャパン代表:野中利子)

The Miracle of APJapan

APジャパンの奇跡 (前編)

June 8, 2021 June Seat

It's a pleasure to join your APJapan National Meeting this year. If there was any positive thing to come from this year of covid, it's that we became accustomed to using Zoom. This past year my husband and I have been having weekly Family Zoom Chats with our four children, two in Maryland, one in Arizona, and one near us in Missouri. Today let's thank our interpreter who had a very short notice. And, I recently heard that Aruga Reiko San is back with us!

As I look back over my life of 84 years, I naturally consider mothering our four children my best accomplishment. Actually, since Active Parenting has been such a large priority for much of my life, it also feels like a beloved child. To tell the truth, APJapan took longer and was more exhausting to bring into the world than the births of my other children!

I wonder if you believe in miracles. What one person sees and considers a miracle, another might not. Looking back on the 36 years I have been involved with AP, I believe I have seen many miracles. Let me name a few.

That I even discovered Active Parenting. In 1985 I was returning to the U.S. to prepare for my daughter's wedding. Saw an ad in a U.S. counseling magazine about a new program called Active Parenting. Ordered and reviewed it while in the U.S. that summer. Coincidence or Miracle?

After sharing it with folks of several nationalities, I really wished that AP was in Japanese, too. I called Dr. Popkin and he was very open to the idea and trusted me with his program. I made several revisions that I thought fit the Japanese culture better—even changing the Narrator to a Japanese. (In my opinion Mr. Kabira did a better job than the narrator on the original video.) A miracle.

Two of our children were in boarding school in Tokyo. Once when I was visiting them, I stopped by the Media Center of the Japan Baptist Mission. Told the Director of the Media Center I had found a really good parenting program that I wished was in Japanese. Ron suggested that I talk to Max Love, the Administrator. I soon had an appointment with Max. Like a miracle, his response was, "I've been looking for a good parenting program for the Japanese people." I assured him that AP was just that program.

今年のAP Japan全国リーダー研修会に参加できたことを嬉しく思います。このコロナ禍でポジティブなことがあったとすれば、zoom会議に慣れたことでしょう。この1年毎週のように夫とともにzoomチャットを使って、4人の子とも達と交流を続けました。4人の子どものうち2人はメリーランド州に、1人はアリゾナ州に、そして1人は私たちの近くのミズリー州にいます。本日、急な依頼を引き受けてくださった通訳の方に感謝しましょう。そして、つい最近有賀麗子さんがAPに戻っておられると伺い嬉しく思います。

84年の生涯を振り返ると、4人の子育てをしたことが人生の最大の成果だと思っています。また、APは私の人生の重要な部分を占めているので、大切な子どもみたいなものです。正直に言いますと、APジャパンをこの世に産み出すためには、自分の子どもを産み出す以上に長く、多くの苦勞がありました。

あなたは奇跡を信じますか？奇跡を信じたり、体験する人がいる一方で、信じない人もいます。APと関わった36年、私はたくさんの奇跡を体験しました。そのいくつかをご紹介しますと思います。

APを発見した奇跡。あれは1985年、娘の結婚式に出席するためにアメリカに帰国していたときです。アメリカのカウンセリング雑誌に「アクティブ・ペアレンティング」という新しいプログラムの広告が掲載されているのを見つけました。すぐに注文して、アメリカにいる一夏の間、そのプログラムを一気に読んだのです。これは偶然？この出会いを奇跡と言わずになんというのでしょうか！

その後、色々な国の人にAPを紹介していく中で、日本語版があればいいのにと心から願うようになりました。そこで私は思い切って、創設者のポプキン博士に連絡を取りました。博士は私の提案を快く受け入れてくださり、私にプログラムを託してくださいました。その後、日本文化に合うように何回か改訂を行い、ナレーターも変えました。(オリジナルのナレーターよりも川平さんの方がずっと素敵なナレーターだったと個人的に思っています。)これも奇跡でした。

私たちの2人の子どもは東京に下宿して学校へ通っていました。彼らを訪ねたとき、日本のバプテスト宣教団のメディアセンターに立ち寄りました。そして、メディアセンターのディレクターに、日本語にしたい素晴らしい子育てプログラムがあると伝えました。ディレクターのロンはすぐに責任者のマックス・ラブを紹介してくれました。私はすぐにマックスと連絡を取りました。すると奇跡的なことが起こりました。マックスは「私も日本の家族のための良い子育てプログラムをずっと探していたんです。」と言ってくれたのです。私は「APがそのプログラムなのよ！」と確信しました。

Max put me in charge of the project and gave a budget for it. Because of a hearing problem, my Japanese was very poor, and I knew it would take a miracle. Since I was twelve years old, I have been a Christian and have read of many miracles Jesus did. Well, I was not trying to turn water into wine, which was Jesus' first miracle: I was trying to turn the English AP program into a Japanese program. For me, that would be a miracle.

Max also approved me attending a Language School in north Japan, the Shibusawa school, to improve my language ability. I boarded there for 3 months.

I remember those next years and months as a blur of hot weather, being exhausted, calling Tokyo to beg for more money for the project, and feeling thankful it seemed to be going well. Also, recruiting people to help do the work, some as volunteers, some being paid.

Each of those days is recorded in my diaries. Turning to a typical day, August 16, 1990: "Saw the weather map—Fukuoka is the hottest place in all of Japan today. Up at 4 AM working on the AP Leader's Guide and checking out the video on Ch3 on the Narrator's part." Actually, that I survived all the stress was a miracle.

Today it would be impossible to name each and every person who has h/h fingerprint on the Japanese AP Program. Let's just say it was a miracle to find so many talented and hard-working people.

In 1989, our son Keith who is a lawyer worked pro bono for us to negotiate the contract with Dr. Popkin. I was very happy that three of our children had become teachers—one Middle School; one High School; one University. Now I considered it a miracle that one of them had decided to become a lawyer!

The Media Team, Ron Hankins and his technician Satoshi San found members of a Christian Actor's Guild who dubbed the AP voices for a reduced rate. Then remarkable Mr. Kabira as narrator and his handsome and talented son Jon Kabira as the voice of Dr. Popkin. What a miracle of talent for our program!

By summer 1991 the program was complete. The Japan Baptist Mission had spent a lot of money, and if you notice, we thank Max Love in the front of the Textbook. As Administrator, Max Love's generosity to

マックスはAP日本語版発行のプロジェクトを私に一任。予算もつけてくれたのです。しかし私には聴覚の問題があり、そのために日本語力はとても乏しく、奇跡でも起きない限り不可能に思えました。私は12歳より信仰を持ったクリスチャンです。聖書には、イエスキリストが起こした多くの奇跡の記載があります。イエスの最初の奇跡は水をワインに変えたことですが、私は英語のAPプログラムを日本語にしようとしているのですから、それは奇跡的なことでした。

マックスは私の語学力を向上させるために、日本の北部にある語学学校、渋沢学校に通うことも認めてくれました。私はそこで3ヶ月間特訓を受けました。

その後数年間は、なんとも言えない蒸し暑い日に疲労感を覚えながらプロジェクトを進めました。東京本部に財政支援を何度も頼み、順調に進んでいるようでありがたいと思ったりもしました。また、有償無償に関わらず、仕事に協力してくれる人を探しました。

その当時のことは私の日記に残っています。ある日の日記には、1990年8月16日：「天気図を見る。福岡は全国で一番暑いらしい。午前4時に起床。APリーダーズガイドに取り掛かり、3章のビデオのナレーター部分をチェックする。」とあり、実際、私がこの全てのストレスを乗り越えることができたのも奇跡です。

今日、日本のAPプログラムに協力してくださった一人一人の名前をあげることはできません。しかし、才能があり、本当に勤勉な人たちを見つけることができたのは奇跡と言ってもいいでしょう。

1989年、出版元であるポプキン博士との契約には、弁護士である息子のキースが、無償で交渉にあったってくれました。4人の子どものうち3人は中高大の教師になり私はとても喜んでいましたが、子どものうち一人が弁護士になったのは、今となっては奇跡に思えます！

メディアチームのロン・ハンキンズさんと技術者のサトシさんはクリスチャンの劇団を見つけ格安な費用で吹き替えをしました。川平さんはナレーターとして優れていて、ハンサムで才能豊かな息子の川平慈英さんには、ポプキン博士の声の吹き替えをしていただきました。奇跡のような才能の持ち主が、このプログラムに参加してくれたのです。

1991年の夏にプログラムは完成しました。日本バプテスト宣教団は多額の財をAPに注ぎ込みました。お気付きだと思いますが、APテキストの最初のページにマックス・ラブへの謝意が記してあります。マックスのAPプログラムに対しての多大な尽力と理解には、奇跡という言葉がぴったりです。

(訳：岩上頼子)

※今号のハローフレンズはお休みし、2021年6月9日（日本時間）に行われた全国リーダー研修会での
ジューン・シートさんのスピーチ（前編）を掲載しました。後編は次号に掲載予定です。



What a wonderful world

地球の息吹を感じた夏

我が家の忘れられない冒険の記録 第2回

第1回をお読みいただいた方数名から「次も楽しみにしてるよ～」なんて嬉しい声をいただき、モチベーションアップ中のはたなか（福岡在住リーダー）です。夏といえば旅行！な私ですが、今は妄想旅行を楽しむのが良さそうですね。



キャンピングカー生活1日目。ラズベガスを出て1時間ほどドライブすると、電柱も信号もない道が続きます。ひたすら伸びる長い道は、幅も広く、大きなキャンピングカーを運転しても全くストレスがありません。キャンピングカー＝動く家なので、6人乗っていても車内は広々。車移動につきものの「私がここに座る！」とか、「狭いからもっと詰めて！」なんて揉め事ありません。

まずは行く先の途中にある街のスーパーでお買い物。2～3日分の水と食料、足りない雑貨をゲットします。旅先のスーパーでのお買い物ってテンション上がるのは私だけでしょうか。可愛いパッケージや食べたことのないフレーバーにときめきながらどんどんカゴに入れていきます。キャンピングカーには、冷蔵庫もレンジもオーブンも炊飯器も搭載されているので、何を買っても調理可能なんです。子どもたちはスナックやジュースでフィニッシュ。大人はシュワシュワも忘れずに！



暗くなる前に宿泊場所となるRVパークへ到着。RVパークは日本でいうオートキャンプ場のような場所で、アメリカだけでも数え切れないくらい数があります。そこでは、バッテリー充電やガスの補充、給水と排水ができます。またシャワーとランドリーだけではなく、プールやビリヤードなどの施設が完備されているところもあり、かなり充実しています。指定の場所に車を止めると、周りの様子をチラチラ見ながらコードやホースを繋ぎ、椅子やテーブルを出し、6人で手分けして夕飯の準備開始。我が家のシェフ（夫）の出番です。いつものように手の込んだ料理でなくても、時間を気にせず自然の中での～んびりおしゃべりしながら家族で囲む食事は最高！何を食べるかではなくて、誰と食べるかが大切なんです！！



楽しい日はみんな早起き。早朝から車内のキッチンでホットドックを作って腹ごしらえし、その日最初の目的地である『ザイオン国立公園』へ向かいます。公園の中はシャトルバスで回り、終点の停留所からトレイルです。山の奥へ進むにつれて気温が下がり寒いくらいでしたが、澄んだ空気と手付かずの自然にエネルギーをたくさんもらいながら、1時間ほど歩きました。



お昼前には車に戻り、次の目的地『アンテロープキャニオン』へ。映える写真でお馴染みのこちらのスポットでは、先住民ナバホ族のガイドさんに付き添ってもらい、光の作る幻想的な世界を体験。約2時間の滞在ののち、その日の最終目的地『ホースシューベンド』へ。馬蹄型の絶景は日本なら「危ないから近づかない」となりそうな所。自然という芸術家に脱帽です！

最初からハイペースの日本人家族。

「一生に一度かも」

と思うとついつい欲張っちゃうんですよね。

盛りだくさんの旅はまだまだ続きます♪



（写真）①遠近感がなくなるレベルの直進道路。
②スーパーで買い物。カートの大きさもアメリカン。
③初RVパークはネット予約済。バス型のハイテクなキャンピングカーがずらりと並んでいます。④1日の締めくくりはこれ必須。⑤ザイオン国立公園。巨大な岩山は圧巻。⑥ホースシューベンド。柵も手すりもない絶景です。⑦アンテロープキャニオンで記念撮影。現地ガイド、ナバホ族の優しさに感動しました。



新リーダーのご紹介

高岸美耶さん（佐賀県武雄市在住）・松尾陽子さん（福岡県福岡市在住）
吉田直美さん（福岡県福岡市在住）・濱田華さん（福岡県福岡市在住）
おめでとうございます！これからの活動を楽しみにしています♪

～最終レポートより～

私はいつも長女が気がかりです。長女は忘れ物が多かったり、弟妹に対し厳しかったり、妹はわがままで嫌いと言ひ、感情的な時がとて目につくからです。これも不要な関心であると思ひ、隙を狙っては私に甘えられる二人だけの時間を作って、長女の好きなキャラメルマキアートを二人で飲みに行ったりしていたけど、それでも満たされてないようで、変わらない長女に正直ガッカリしていました。むしろ機嫌が悪くならないよう顔色を見て接している自分に気がつき途方に暮れていました。

そんなある日、長女が妹のお風呂の世話をしてくれた日があり、その時、妹に「お姉ちゃんにお世話ありがとうって言おうね」と声をかけ、長女に対し、私と二人で「ありがとう」と言ったら、とても満足そうな顔でした。それを見た瞬間、長女に対して必要なのは二人の時間よりも労いだったことに気がつきました。子どもも大人と同じように対等に接するべきであると頭ではわかってはいたはずなのに、長女に対し、いつの間にか長女なのだからやって当たり前、妹を可愛がって当たり前と思っている自分がいました。

また、以前、講座の中でそれぞれ満たされる壺の大きさが違うという話を聞いた記憶があります。私の考える壺と長女の壺は入れるものが全く違うものだったのだなと気がつくことができ良い経験になりました。

高岸美耶

家庭教育は、人間形成の出発点であると考えます。家族の触れ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼関係、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的マナーを身につけていく上で重要な役割を果たしていると考えます。

例えば、いつも家族で「おはよう」「ただいま」「いただきます」「おやすみなさい」などの挨拶ができること、学校での出来事について話を聞いてもらえること、テレビやゲームなどのルールの時間を話し合っているなど、家庭は、子どもたちが最も身近に接する社会であり、常に子どもの心のよりどころとなることが望ましいと考えます。コロナ禍で人との交流が制限される中、家族との時間や家庭教育は大変重要になっていると思います。

学校生活でもコロナ禍以前とは大きく変化しています。先生やお友達とのスキンシップが減っていることで、信頼関係が図れていないように感じます。特に、小学1年生になる我が子は、新しい環境で緊張感のある中、マスクをつけた先生やお友達の表情がわかりづらいことからコミュニケーションが上手に取れず、自分が否定されていると感じることがあるようです。笑顔が子どもにも与える影響の大きさを考えさせられました。

セルフエスティームを高めるためにも、家庭では、しっかりと話を聞き、エネルギーを充電させ、勇気づけをしていきたいと思っています。

松尾陽子

現代の情報化社会において、子育て世代の親達は情報に振り回されることが多くなったと感じます。〇〇が良いと聞けばスマホでサッと調べることが出来るため、とても便利になりました。その反面、デマやフェイクニュース等も溢れており、どの情報が正確で頼れるのかを見極めることも難しく感じます。調べれば調べるほど訳がわからなくなり混乱する要因の一つであると思います。当然、子育てにおいても真面目で勉強熱心である親ほど、世の中の不確実な情報に翻弄され必死にもがき苦しみ、本来であれば我が子を愛しみ、子育てを楽しむという本質から遠ざかっているように感じます。

そんな中で、自分がこれだ！！と思った学びに出会う事ができれば、同じ考えを持つ親達と情報や子育ての方法を共有する事が出来ます。それにより、今まで一人で背負っていた子育ての重圧から少しでも解放され、日常生活そのものが楽しく、もっと楽に子育てを楽しめるようになると考えます。

子ども達も同様にデジタル機器に触れる機会や時間が増え、良くも悪くも当たり前利用しています。また、幼い頃から習い事に費やす時間も増えており、昔のように公園などで友達と遊ぶ時間が極端に少なくなったように感じます。

幼い子ども達が、自分は何のために学んでいるのか、自分が本当にしたいことをしているのか、などの問題意識を持つはずもなく、親から言われた通りに毎日を過ごす受身な子どもが多いように感じる事があります。一方で、昔はなかった習い事や勉強方法も増えていて、子ども達が自発的に「やりたい!!」と思えばどんなことでも世界中から学べる世の中になったことは本当に素晴らしいと思います。親も同様に、何歳からでもどのタイミングでも学びをスタートさせる事が出来ます。そのため物心ついた我が子の良い手本になり、共に学ぶ楽しさを実感する事ができると考えます。

育児は育自であると考え、せっかく与えられたチャンスに何度でもトライし失敗したらやり直し、親子共々「積極的に行動」していきたいと考えます。

吉田直美

去年から続くコロナ禍。以前にもまして、子どもにとってストレスの多い日々だと思います。規制されることも多く、私を含めて周りの大人たちも不安定。その中で今までとは違う発散方法を見出さなければならない。自分の気持ちのままに行動できない。果たして自分がやっていることが正しいのかどうか？正解がない、はっきりと見えないことで不安も多いことだと感じます。親である私たちが、その子どものことをしっかり受け止められているのか？自信はありません。大人もあなたたち子どもと同様に悩むこと。不安定になることがあること。それらを子どもに伝えることは、決して悪いこととは思いません。家族として、一つのグループとして、話し合い、修正しあって、お互いに成長していければと思います。

濱田華

全国リーダー研修会 たくさんのご参加ありがとうございました！



6月9日、約2年ぶりに「全国リーダー研修会」を開催しました。初めてのzoom開催ということで前日まで準備に追われておりましたが、予想を上回る数のリーダーさんトレーナーさんにご参加いただき、とても充実した研修会になりました。今回は、アメリカからAPジャパン創設者ジューン・シートさんにもオンラインでご参加いただき、多くの参加者の皆さんが勇気づけられたと思います。また午後の部のグループワークではどのグループでもたくさんのアイデアが共有され、リーダー、トレーナーとしての意識の高さを再確認しました。

APジャパンはこれからも皆さんのアクティブな活動を応援しています！

<参加者（敬称略）>

野中利子（福岡県福岡市）石津美智子（福岡県糟屋郡）金子左代子（福岡県福岡市）田川佐知子（福岡県福岡市）
島田和子（福岡県大野城市）穴井典枝（福岡県福岡市）富施佳子（埼玉県和光市）中瀬順子（神奈川県横浜市）
廣瀬妙子（東京都八王子市）朝長真由美（福岡県福岡市）鈴木佳代（愛知県豊田市）山下香（福岡県福岡市）
畠中愛子（福岡県福岡市）八十田有仁子（福岡県福岡市）田中裕子（福岡県三井郡）仮屋祐子（福岡県福岡市）
萬代美穂（群馬県吾妻郡）三浦理恵（シンガポール）松村節子（群馬県吾妻郡）白石美代（福岡県福岡市）
磯部玲子（福岡県福岡市）友納薫（東京都板橋区）岩上頼子（兵庫県神戸市）磯部一恵（福岡県福岡市）
佐藤久子（千葉県市川市）湍谷和美（沖縄県那覇市）大西比佐子（神奈川県横浜市）有賀麗子（神奈川県藤沢市）
ジューン・シート（アメリカ・ミズーリ州）

『APを学ぶ仲間の会』ってご存知ですか？

APを学ぶ仲間の会 副会長 朝長真由美

2017年9月某日

「朝長さんはリーダーになったらアミカスで講座をやってね。」

「・・・アミカス？・・・？」

フォローアップとリーダー養成講座受講の為に、毎月足しげくAPジャパン本部の茶山に通っていたある日、初めて『APを学ぶ仲間の会』の存在を知りました。この頃、野中先生はちょうど『会』を設立されたばかりだったのです。

※アミカス：福岡市南区「福岡市男女共同参画推進センターアミカス」

APをたくさんの方に知ってもらおうと、新米リーダーさんの講座の練習の場として、リーダーを取得した私達が実際に活躍していけるようにと練習の場を用意してくださっていたのです。

そして『APを学ぶ仲間の会』は、こういった活動をするための『会』だったのです。

そもそも社交不安障害ではないかと思う程人前で話す事が苦手な私が、リーダー養成講座を受講しようと決めたのは講座を開きたかったからではなく、自分の中にAPを落とし込みたかったからでした。今思えばAPに出逢ってから2年間、APの皆さんに励ましてもらい続けたからこそ「やってみよう！」と勇気が持てたのかもしれません。リーダー資格を取得して1ヶ月も経たずに私は、アミカス講座第1回で模擬講座と同じ第1章を担当させていただきました。

コロナ禍でリーダー会も昨年からzoom開催ができ、他県のリーダーさんとお話しさせていただける機会も増えたので、よく「『APを学ぶ仲間の会』って何ですか？」や「どんな活動をしているのですか？」など聞かれることがありますので、ご紹介させていただきます。

『APを学ぶ仲間の会』

【設立】2017年9月1日

【本部】旧茶山、現西新

【会の目的/会員数】

APを提供し、子育てに関する講演会、ワークショップなどの子育て支援を行うことを目的とした現在会員数32名の非営利の会。（決まりではありませんが活動場所の都合上、多くの方が福岡県在住です。）

【事務局】

会長：野中利子（APジャパン代表と兼務）

顧問：金子左代子（トレーナー）

副会長：朝長真由美（リーダー）

会計：穴井典枝（リーダー）

サポート：八十田有仁子（リーダー）

【活動内容】

定例zoomミーティング（1回/月）

2017年10月 第1期アミカスAP講座開講（1回/月）

2018年10月 第2期アミカスAP講座開講（1回/月）

2019年10月 アミカス初・ワークショップ開催（福岡市後援）

第3期アミカスAP講座開講

2019年12月 福岡県教職員組合X'masイベント参加

2020年 2月 福岡市東区男女共同参画地域リーダー育成研修会参加

福岡市東区男女共同参画地域リーダーに向けてワークショップ開催

2020年 7月 福岡市NPO・ボランティア交流センター『あすみん』利用登録

2020年11月～

2021年8月 アミカスフォローアップ講座（1回/月）

2021年 6月 福岡市西区『西市民センター』利用登録

2021年 9月 西市民センター初・ワークショップ開催予定

2021年 9月 アミカスワークショップ開催予定（福岡市後援）

2021年10月 アミカス・西市民センターにて、AP講座開講予定

～アミカスAP講座～

アミカスでは月1回、リーダーが交代で講座を担当するスタイルで、安価で講座を提供しています。

（テキスト代別途）リーダーたちも「学ぶ人」という立場ですので、毎回受講料を払っています。

会場であるアミカスの隣の駅近くに住んでいる私（朝長）は、設立当初から自然と会場担当になっていきました（笑）。そしてこの帰属と貢献が私の自己有用感を高めてくれ、徐々にセルフエスティームをも高めていってくれたのは確かだと思っています。

<ワークショップのテーマ>

「子どもの自立」をめざして、
今、「あなたが出来ること！」

全ての大人にセルフエスティームの重要性に気付いてもらい、まず大人が精神的に自立をし民主的な関わり方を学ぶ事で子どものセルフエスティームが育つということや、子どもの頃から自分と同様に他者も大切な存在であると捉える平等感覚が身についていると、いじめ、自死、虐待、DV、引きこもりがなくなる社会を構築できることを伝え、理解していただくための考え方や関わり方を提供しています。

補助金なしの支援枠ではありますが、福岡市の後援がもらえるほか、施設利用料やワークショップ（以下WS）のチラシを1,000枚近く無料で印刷してもらえたり、その半数以上を福岡市の施設や子どもプラザなどに配布してもらうことができ、広報も支援してもらうことができます。

WSは20名程度の募集で満席（含子ども）内6名ほどが本講座へお申し込みくださいました。アミカス本講座へは、WS以外からのお申し込みや前期からの再受講者などで12名ほどが参加されました。コロナが足枷となり途中で受講を断念された方もいらっしゃるれば、毎回フォローアップに参加して下さる方もいらっしゃいます。

設立から丸4年。コロナに翻弄されながらも壁にぶち当たる度にあーでもない、こーでもない和気あいあいと無理のないより良い道を模索し活動を続けています。そんな話し合いの時でも自分の考えや意見を否定されることなくブレインストーミングしてもらえることがとてもありがたく、事務局を続けられている秘訣かもしれません。

『APを学ぶ仲間の会』は、今秋設立5年目を迎えます。

設立当初から準備、開催、登壇などご協力をいただいている、初代副会長の磯部玲子さんと一恵さん親子、島田さん、岩崎さん、石津さん、山下さん、畠中さん、田川さんほか、たくさんの受講生さん、リーダー、トレーナーの皆さんあつての『APを学ぶ仲間の会』だといつも感謝の気持ちでいっぱいです。

今後はこういった『会』や『活動』が全国に広がり、連携してAPの輪が広がっていったらいいなと願っております。

<<FAKE IT! UNTIL YOU MAKE IT!>> ~誰でも最初は初めてです~

講座を担当してみたいリーダーさん大募集中！

今秋からは「アミカス」と「西市民センター」の2ヶ所でWSと講座開催予定です！！

個人講座の練習に、また他のリーダーさんのやり方や進め方を知るために、参加されてみませんか？

アミカス担当⇒朝長／西市民センター担当⇒八十田まで、お気軽にご連絡ください。

心よりお待ちしております♪

あとがき：

アメリカでIT業界の起業家がよく使う標語に「Fail fast, cheap, smart」という言葉があるそうです。訳すれば「早く、安く、賢く失敗せよ」。一度失敗すると失敗の烙印を押されてしまうことの多い日本とは違い、起業家精神において失敗は学ぶための良い機会だと捉えられる傾向にあるようです。これまでの常識が通用しなくなってきた今こそ、失敗から学ぶ良い機会です。失敗を恐れず勇気を持って行動する姿勢と失敗を寛容に受け入れる心を、まずは大人である私たちから育てていきたいと思います。（畠中）



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>



「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2021 発行者 APジャパン
代 表 野中 利子
副代表 畠中 愛子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (本部)

電話：090-8391-3196

FAX：092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

季刊誌「リンク」は年4回発行しています。

ホームページで自由にご覧になれます。